



## マナビーの「教えてくださ〜い」

# 2023 生涯学習フェスティバルの様子とは？

2023 生涯学習フェスティバル（SGF2023）は、10月8日（市民文化の日）、9日に開催されました。今年はファシリテータ養成講座修了者を中心に、シニアから大学生までの新しいメンバーが実行委員として新風を吹き込んでくれました。そこで、実行委員長の白澤昭雄さん（浅間町）、広報担当として活躍された石橋雄司さん（押立町）にその体験談をお伺いしました。（取材：奥野英城、中濱敬文）

### 実行委員会に参加しようと思われたきっかけは？

白澤

ファシリテータ養成講座を受講した後に生涯学習センター（SGC）の“和みの部屋”にも参加していたこともあって、SGCの長田さんから声をかけられたことがきっかけです。委員長を引き受けたのは、講座受講生仲間で副委員長の下野さんから全面協力するからと推されたことが大きい要因ですね。

石橋

学習センターとのつながりは、娘を連れてプールを利用したり、時々図書館に来たりする程度でした。私は普段会社勤めをしており、それまで地域の行事にほとんど関わる機会がありませんでした。会社のことだけでなく、地域で企画するお互いに交流するイベントに参加することで、仕事で学んで来たことが、何か活かせるのかもしれないと思って、市民公募の実行委員に応募しました。



<写真の前列中央が白澤さん 左が石橋さん>

### 参加されて初めに感じられたことは

白澤

これまでは、面白いものがあれば学習センターに顔を出す程度でしたが、よもや自分自身が実行委員としてフェスティバルをやるとは思いもよりませんでした。今までのようにされてきたのか全くわからず、白紙の状態に参加できて、みんなでフェスティバルを作れたのはうれしかったです。仕事を終えた定年後、地域とのかかわりを持ちたいと思っていましたが、学習センターは素晴らしい建物で、30年たてば中身も伴ってきたのではないかと考えています。

石橋

準備の段階でいろいろの自主団体、NPO 団体がいろいろの市民対象の活動をしているのを知り、会社勤めをしている者にとっては、あまり縁がなくもったいないと感じたので、フェスティバルがこの辺をつなぐ役割を果たせばいいかなと思いました。調布市などは若い人が面白いイベントを企画してそこに高齢者まで参加できて地域で盛り上がっているように感じます。府中市の場合は、立派な施設がたくさんあって、分散し過ぎているように感じるので、地域を盛り上げられるような企画ができればいいと考えました。

### 活動の中で工夫されてきたことは？

白澤

今までのことはあまりわかりませんが、私が思っていたのは、ボランティアとして参加している人自身が、なにかやらなければいけないとかの義務感ではなく、余裕をもってフェスティバルを楽しんでもらえたらいいなと意識してきました。特に、新しい試みやアイデアには、できるだけ実施できるように委員会の雰囲気づくりをするように心がけました。

石橋

これまで会社仕事でやっていた当たり前のことをきちんとやってみようと思いました。イベント企画や運営の経験もあったので、まず自分でやって形にすれば皆さんの意見が出て一緒に行動する流れができるよう、率先して楽しくやることを意識しました。

また広報での新しい試みとして、若い人がフェスティバルに関心を持ってくれるよう SNS での発信に力を入れました。インスタ映えを意識した撮影場所を設け、なるべく皆さんが SNS に発信してくれるように工夫しました。ただ企画したものをすべて反映できず、どこまで発信拡散できたかやや不明な点がありますが。

## 実行委員会メンバーの動きを見て感じられたことは？

白澤

フェスティバルへの思いは、みなさんいろいろ違ったものがあると思いますが、それぞれの能力を自発的に発揮して全体として目標に向けてまとまってくれた印象があります。コミュニケーション力の高い方々が集まってくれたことに何よりも感謝しています。来館者には声がけをして会場の案内など困らないように配慮するなど、それぞれの持ち場でメンバー各自が自然な対応をしてくれていました。



石橋

3年ぶりということで、フェスティバルの規模は来場者数を含めて丁度よかったのではないかと思います。もう少し来場者数が増えると、フェスティバルを回せなくなってしまったと思います。今回、新しいメンバーが多く参加して、学習センターの長田さん、佐藤さん以外に、フェスティバルをどう動かしていけばいいかを実際に体験できたのは、大変いい経験ではなかったかと思います。来年につなげていきたいですね。

## 今後の方向・次回への提言は？

石橋

イベント企画ではよくあることですが、広報パンフを印刷する段階でもプログラムの詳細が決まっていなくて、スケジュールが逼迫したのには苦労しました。プログラムがもう少し早く参加団体に配布でき、そこにSNSでの発信を加えることができているならば、参加者も増えたのではないかと考えています。

白澤

今年は、スケジュールの確定がおくれたことで、石橋さんはじめ広報担当者には忙しい思いをさせてしまいました。SGFは市民の学習活動の発表の場と、体験学習の機会として定着しているので、次回は時間的に余裕を持った準備をすすめて、早い周知と宣伝をして一層盛り上げて欲しいと思います。

今回の実行委員会には20代から70代までの多様なメンバーが集まり、世代間の繋がりも生まれました。若いメンバーのアイデアで新しい試みがなされ、実行委員会は体験的学習の実践場所ということもできます。次回もチャレンジ精神に溢れた若い世代の委員が集まることを期待します。